

1. 鉄筋の表示記号

Table with 4 columns: 鉄筋径, 表示記号, 鉄筋径, 表示記号. Rows include D10, D13, D16, D19, D22 and D25, D29, D32, D35, D38.

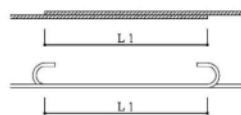
(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

2. 鉄筋の表示方式

Table with 2 columns: 表示方式, 表示例および内容. Rows include n-Dm, Dm @L, Dm @L(D), Dm Dm' @L, and Dm @L千角.

(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

・L1(重ね継手)の長さは下記に示す値とする。



3. 鉄筋の定着および継手長さ

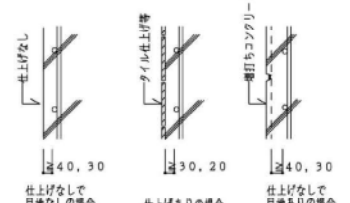
Table with 4 columns: コンクリート設計基準強度 Fc, 鉄筋の種類, フックの有無, 定着長さ (L1, L2, L3).

継手の定着
・重ね継手と定着の長さは3の表を基準とする。ただし左が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、右の公称値による。

仕
名
記
事
項
名
称
R-1-1

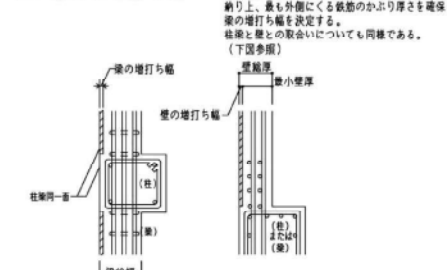
1. 鉄筋のかぶり厚さの最小値 (mm)

Table with 3 columns: 構造部分の種類, 仕上がりあり/なし, 厚さ (mm).



(注) 1. 目地がある場合のかぶり厚さは、目地直からとする。
2. 上表は、構造用軽集積コンクリートの場合も含む。

2. 梁壁の増打ち幅



仕

名

記

事

項

共通事項(その3)

R-1-3

1. 鉄筋の折曲げ規程

Table with 4 columns: 曲げ角度, 折曲げ図, すべてコンクリート, 使用箇所.

(注) Dは、曲げ内の直径

(2) 中間部

Table with 3 columns: 折曲げ図, すべてコンクリート, 使用箇所.

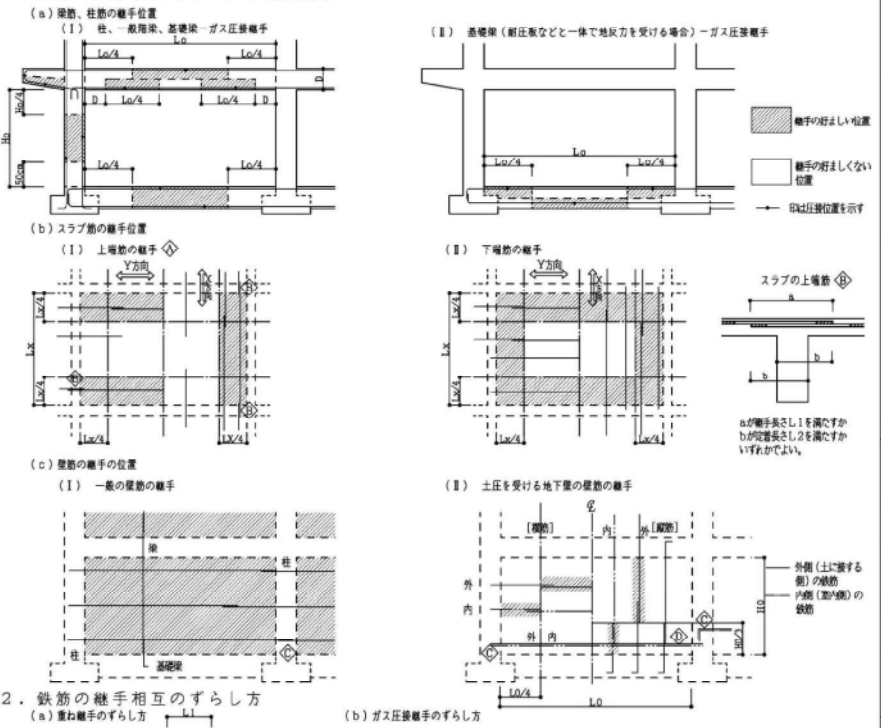
SD390を使用する場合は、()内を適用する。

・フックを必要とする末端部を次に示す。
1) 異形鉄筋では管筋、および管
2) 増打ち用いる鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
3) 一般筋、梁(基礎梁を除く)の突出部分の重ね継手

ひび割れ防止に用いる巻掛金網及び鉄筋継手の定着長さは、支持部材の内表面から巻掛金網及び鉄筋格子の最外端の巻掛までの距離とし、その巻掛幅は巻掛幅に50mmを加えた長さとし、かつ150mm以上とする。

仕
名
記
事
項
名
称
R-1-2

1. 鉄筋の継手位置(ラーメン構造用)



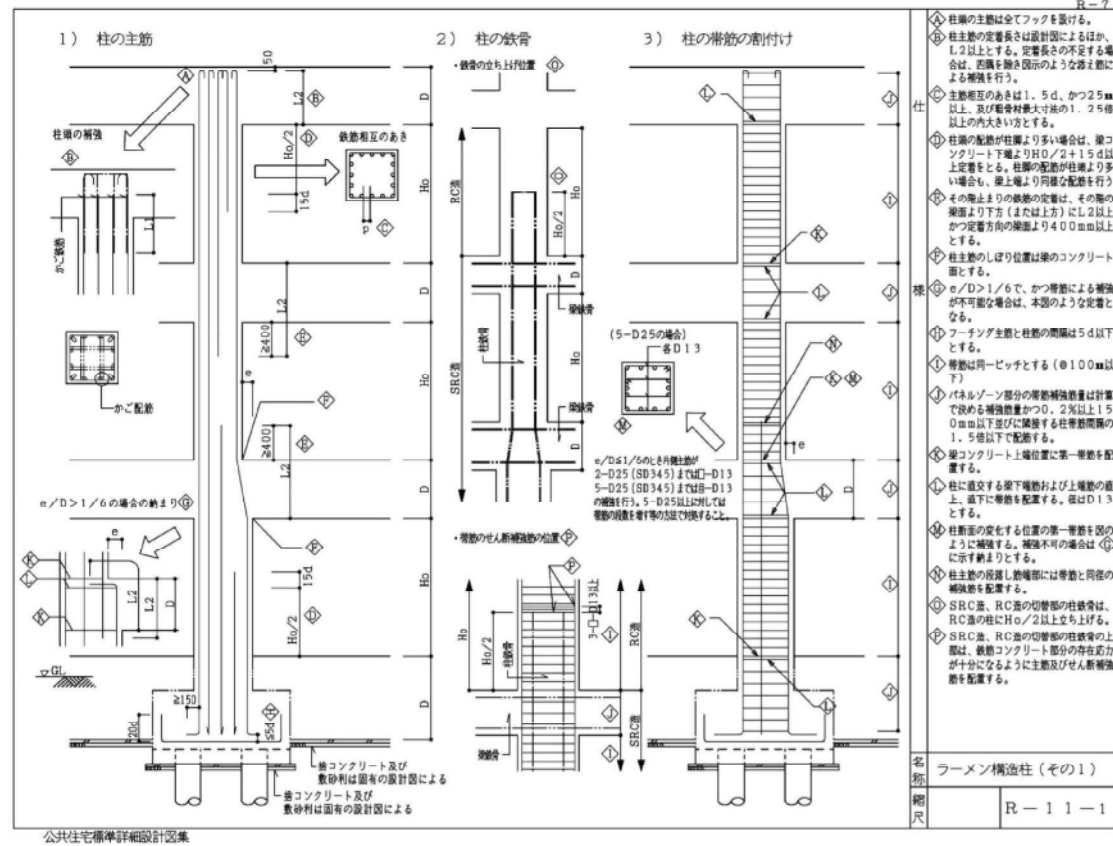
・鉄筋の継手は原則として高力の小さいところ、かつ彎曲はコンクリートに圧縮力が生じている部分に設ける。また継手は一方に集中することなく相互にずらして設けることとする。

・壁の縦筋及び横筋の内外関係は、縦筋を縦筋の外側に配する。但し、土圧を受ける地下壁は、縦筋を横筋の外側に配する。

共通事項(その4)

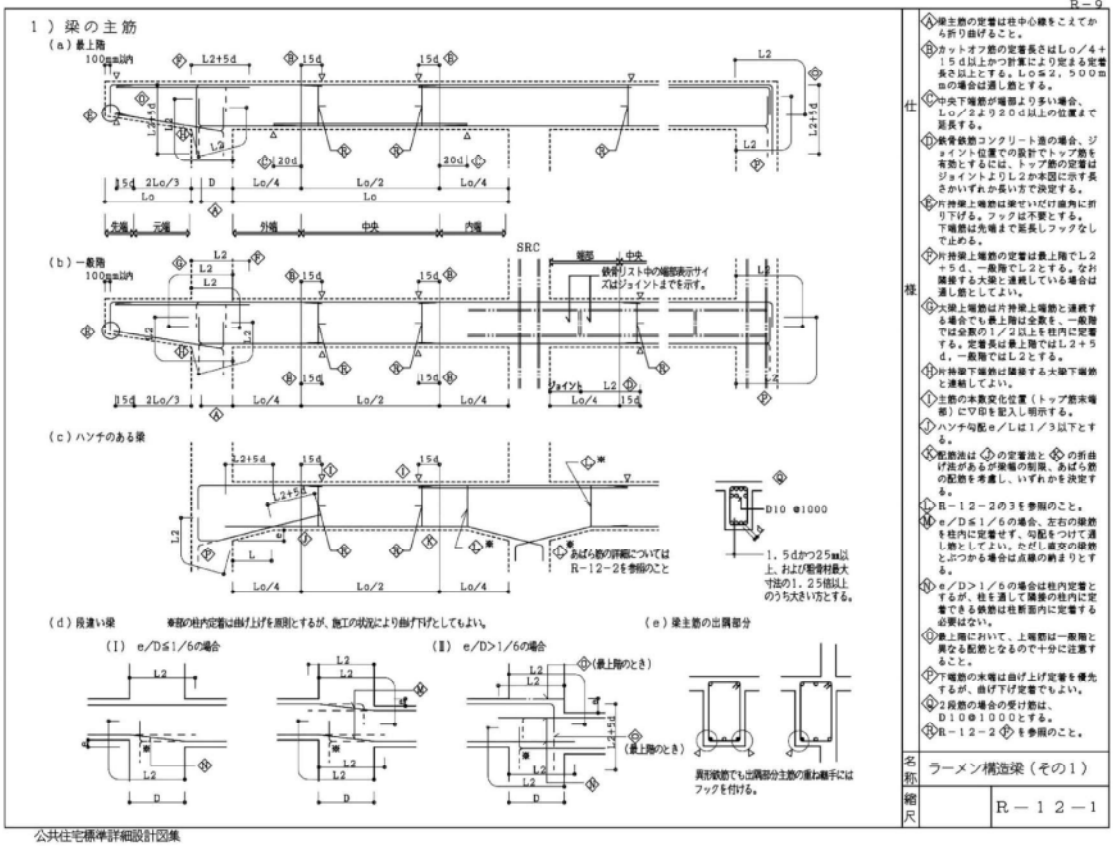
R-1-4

Table with 4 columns: 株式会社ヤスウラ設計, 鳴海住宅建築工事(第4工区), 図面番号, No. S-A.



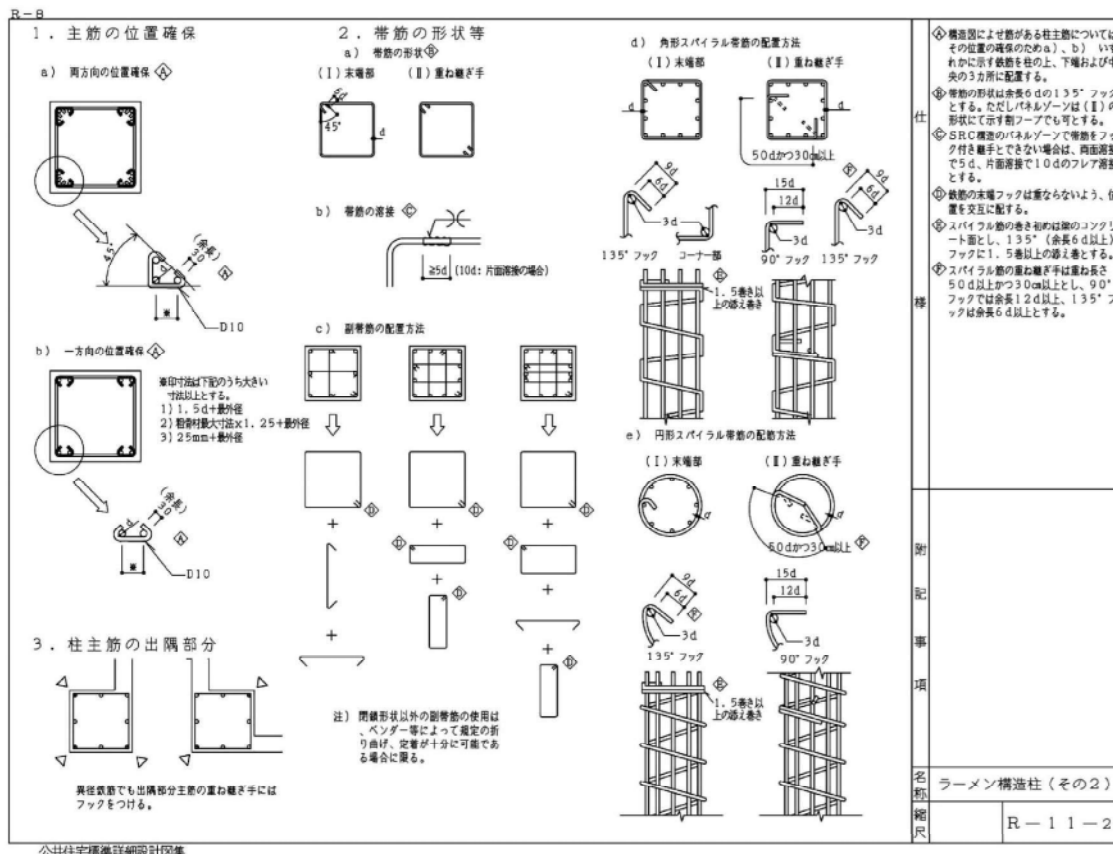
柱の主筋は全てフックを付ける。
 柱主筋の定着長さは設計図によるほか、
 1.5d以上とする。定着長の不安定な
 場合は、両端を固定したような状態に
 する。
 主筋相互のあきは1.5d、かつ25mm
 以上、及び帯筋材最大寸法の1.25倍
 以上の内大きい方とする。
 柱筋のあきが任意より多い場合は、コン
 クリート下層より150mm以上、1.5d以
 上定着せよ。柱筋のあきが任意より多
 い場合は、上層より同様な配置を行う
 その場より下の定着長さは、その場
 の梁より下方（または上方）に1.2d以上
 かつ定着方向の梁より400mm以上
 とする。
 柱主筋のしり位置は梁のコンクリート
 面とする。
 $e/D \leq 1/6$ で、かつ帯筋による補強
 が不可能な場合は、本図のような定着と
 なる。
 フーチング主筋と柱筋の間隔は5d以下
 とする。
 帯筋は同一ピッチとする（ $\phi 10$ mm以
 下）
 パネルゾーン部分の帯筋補強は計算
 でのめり補強から、2倍以上1.5
 0mm以下に規定する柱筋の補強の
 1.5倍以下に規定する。
 梁コンクリート上層部に第一帯筋を配
 置する。
 柱に直交する梁下層部および上層部の筋
 上、直下に帯筋を配置する。柱はD13
 とする。
 柱筋の定着位置は第一帯筋を設ける
 ように規定する。補強材の場合は
 示す通りとする。
 柱主筋の保護し厚部には帯筋と同様の
 補強を配置する。
 SRC筋、RC筋の切替部の柱筋は、
 RC筋の柱に $H_o/2$ 以上上げる。
 SRC筋、RC筋の切替部の柱筋の上
 部は、鉄筋コンクリート部分の存在高が
 十分なように主筋及び第一帯筋補
 強を配置する。

ラーメン構造柱 (その1)
 R-11-1



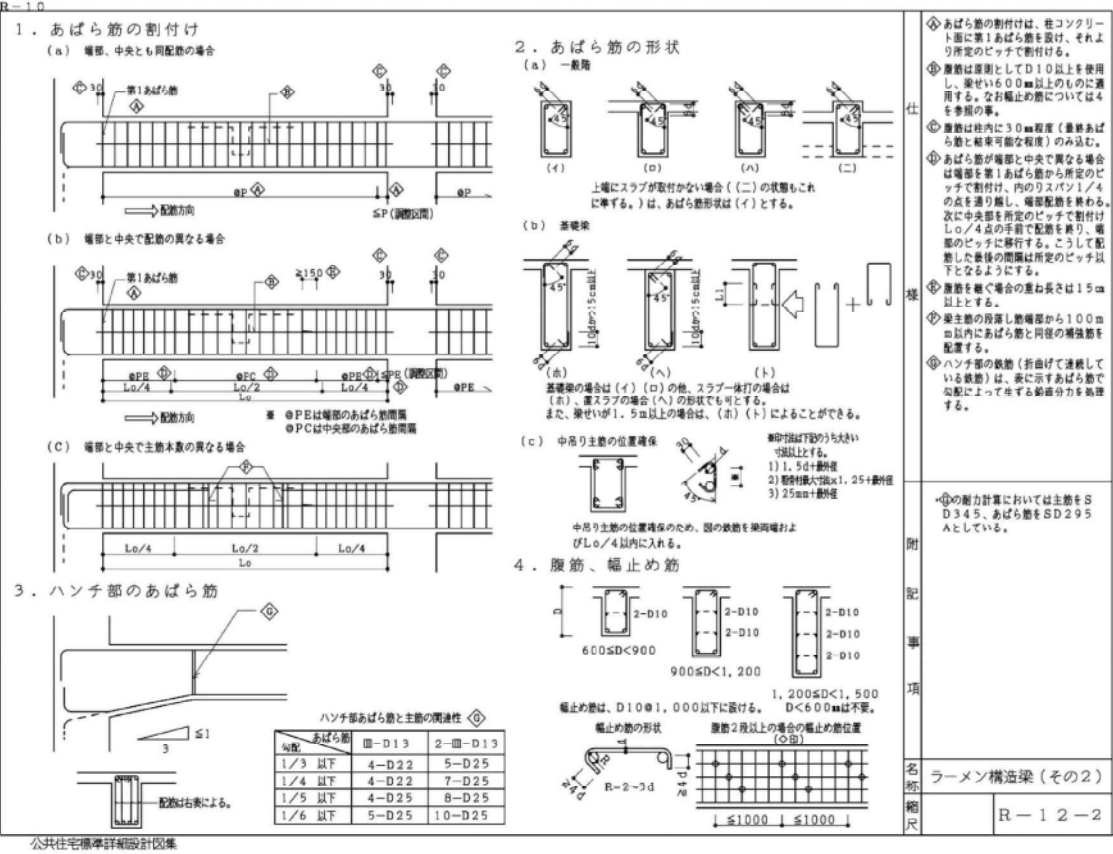
梁主筋の定着は柱中心線よりこえてか
 らなければならない。
 カットオフ部の定着長さは $L_o/4 + 1.5d$
 以上かつ計算より定まる定着
 長さ以上とする。しかし、500mm
 の場合を除く。
 中央下層筋が幅より多い場合は、
 $L_o/2$ より200mm以上の位置まで
 延長する。
 鉄骨鉄筋コンクリート構造の場合、ジ
 ョイント位置での設計でトップ筋を
 有効とするには、トップ筋の定着は
 ジョイントより1.2mか固定に示す長
 さのいずれか長い方で決定する。
 片側上層筋と片側下層筋はジョイントに
 対して、フックは不要とする。
 下層筋は先端まで延長しフックなし
 とする。
 片側上層筋の定着は上層部で $L_2 + 5d$ 、
 一般層で L_2 とする。なお
 隣接する大梁と連続している場合は
 差し渡しとする。
 上層筋は片側上層筋と連続する
 場合は $L_2 + 5d$ とする。一般層
 では梁の1/2以上を柱内に定着す
 る。定着長は上層部で $L_2 + 5d$ 、
 一般層で L_2 とする。
 片側下層筋は隣接する大梁下層筋と
 連続してよい。
 主筋の本数変化位置（トップ筋端
 部）に印を記入し明示する。
 フーチング筋は e/D が1/3以下とする。
 筋のあきは e/D の定着長と
 の併用が
 筋のあきは e/D の定着長と
 の併用が
 $e/D \leq 1/6$ の場合、左右の筋を
 柱内に定着せよ。勾配をつけて通
 してよい。ただし、梁の断面
 とかなる場合は左端の筋よりと
 する。
 $e/D > 1/6$ の場合は柱内定着と
 するが、柱を通し、梁の柱内に定
 着できる筋は柱断面内に定着す
 る必要はない。
 上層筋において、上層筋は一般層と
 異なる筋となるので十分に注意す
 ること。
 下層筋の端は直上げ定着を優先
 するが、直下げ定着でもよい。
 2段筋の場合の受け筋は、
 $D10 \phi 100$ とする。
 R-11-2-2を参照のこと。

ラーメン構造梁 (その1)
 R-11-2-1



構造図に定められている主筋については
 その位置の確保のため、a)、b) い
 ずれか必ず帯筋を柱の上、下層部及び中
 央の3か所に配置する。
 帯筋のあきは余長6dの135°フック
 とする。ただし、パネルゾーンは(II)の
 形状に示すフックでも可とする。
 SRC構造のパネルゾーンで帯筋をフック
 付き継ぎ手とできない場合は、両面定着
 5d、片側定着10dのフック形状と
 する。
 帯筋の末端フックは重ならないよう、位
 置を交互に配する。
 スパイラル筋の巻き始めは梁のコンクリ
 ート面とし、135°（余長6d以上）
 フックに1.5倍以上の巻き巻とする。
 スパイラル筋の巻き始めは手は余長6
 0d以上かつ30mm以上とし、90°
 フックでは余長1.2倍以上、135°フ
 ックは余長6d以上とする。

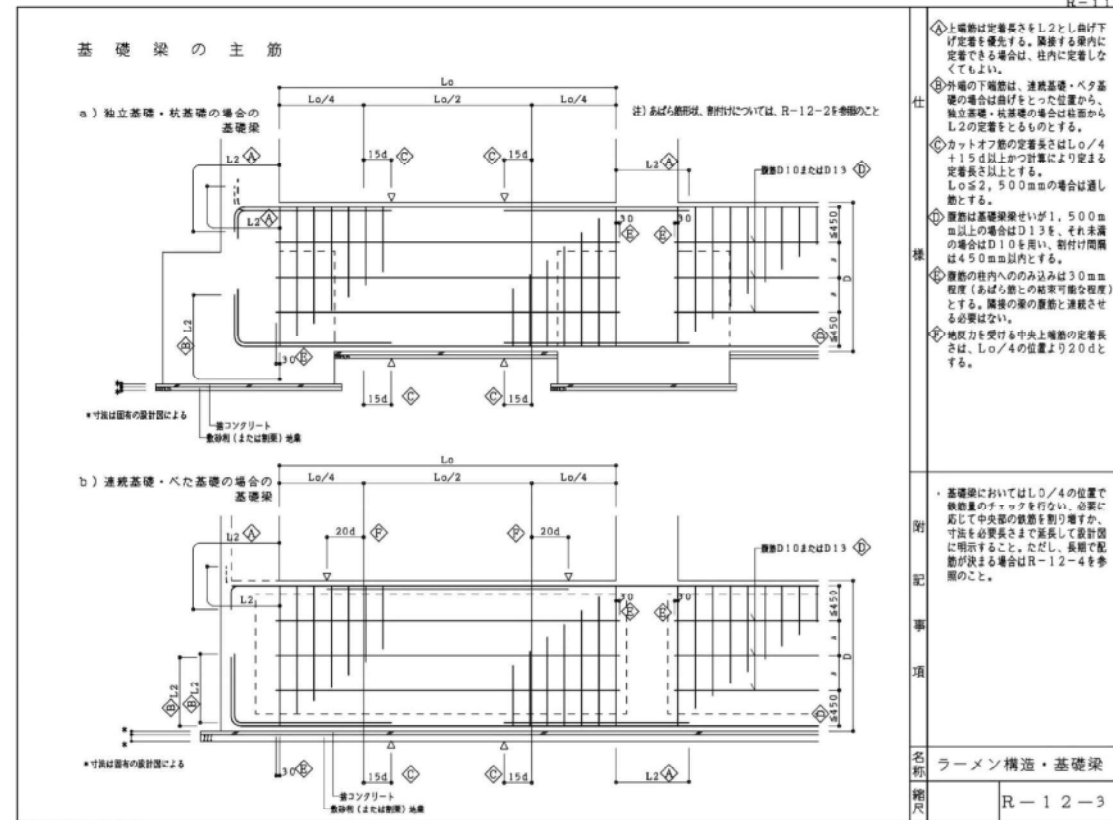
ラーメン構造柱 (その2)
 R-11-2



あばら筋の割付けは、柱コンクリ
 ート面に第1あばら筋を設け、それよ
 り所定のピッチで割付けする。
 筋数は原則としてD10以上を使用
 し、長さ1600mm以上のものに適
 用する。なお、幅止め筋については4
 を参照のこと。
 筋数は柱内に30mm程度（筋数あ
 ばら筋と同等可能な程度）のみ込む。
 あばら筋が端部と中央で異なる場合
 は端部を第1あばら筋から所定のピ
 ッチで割付け、内径 $L/4$ の
 長さを確保し、端部筋を折る。
 筋は中央部所定のピッチで割付け
 $L_o/4$ の手前で筋を折る。こうして筋
 折した後の間隔は所定のピッチ以
 下となるようにする。
 筋数を重ねる場合は重ね長さは150
 mm以上とする。
 梁主筋の巻き始め部から100mm
 以内にあばら筋と同様の筋数を
 配置する。
 ハンチ部の筋（折直して連続して
 いる筋）は、表に示すあばら筋で
 変換して示す筋数を配置する。

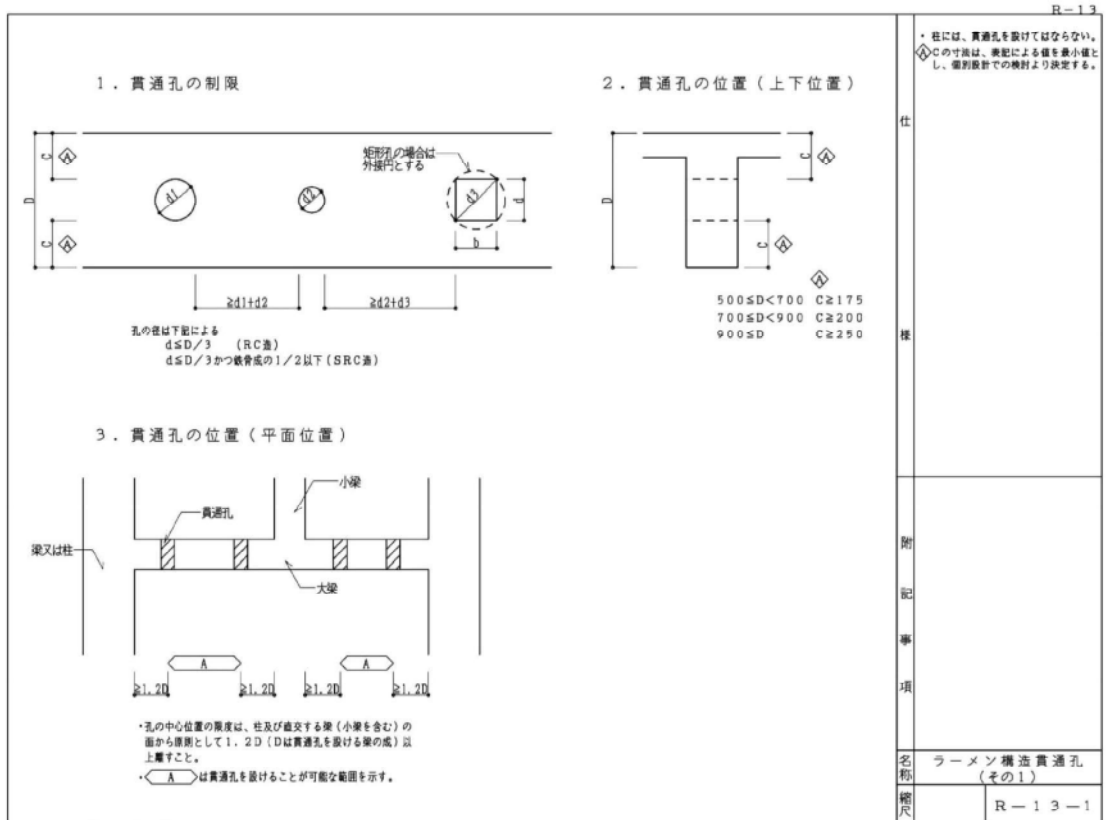
ラーメン構造梁 (その2)
 R-11-2-2

株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事 (第4工区)		図面番号
【構造関係規定に適合することを保証】 一級建築士登録番号 第03072号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦		一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		No. S-1B
株 主	製 図	設 計	縮尺 A1 A3 二	
H28年3月		設計		愛知県建設部建築局公営住宅課



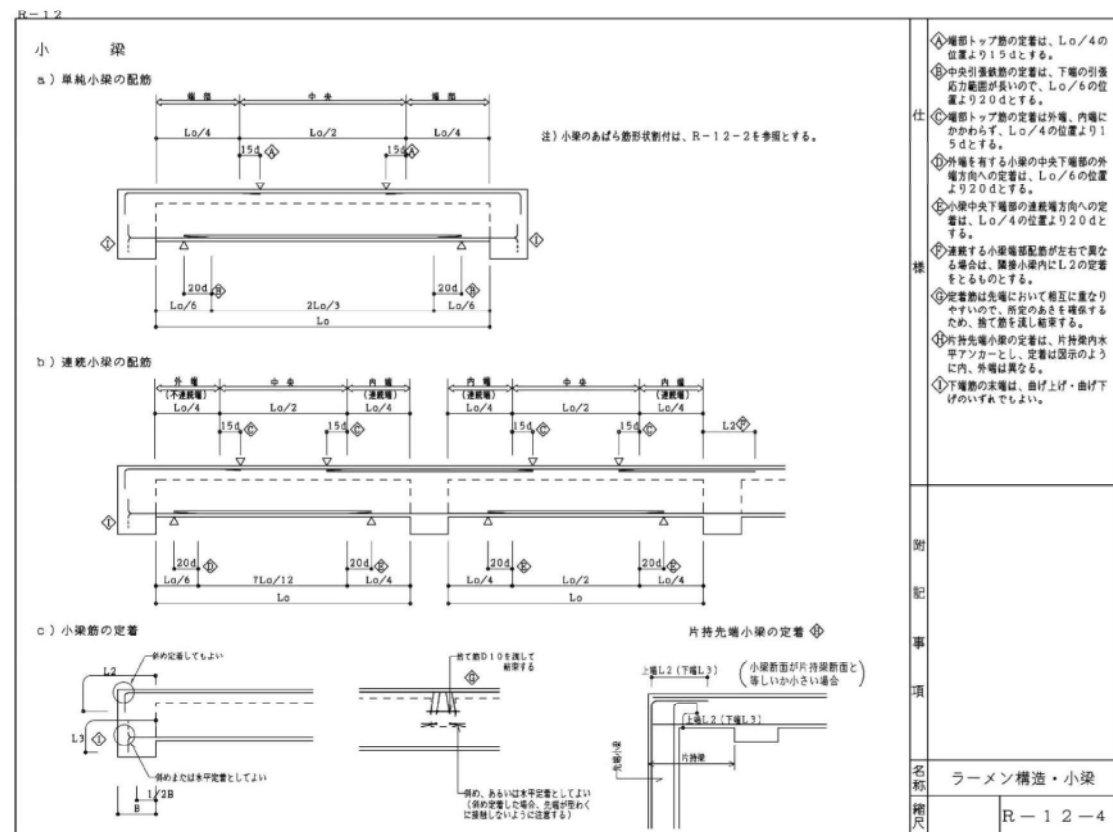
仕	<ul style="list-style-type: none"> 上端筋は定長さより1.2とし、曲げ下げ定着を優先する。隣接する梁内に定着できる場合は、柱内に定着しなくてもよい。 外端の下端筋は、連続基礎・ベタ基礎の場合は曲げ下げた位置から、独立基礎・柱基礎の場合は柱面から、L/2の定着をとるものとする。 カットオフ筋の定長さはL0/4 + 15d以上かつ計算により定まる定長さ以上とする。L0≧2, 500mmの場合は差し替える。 筋節は基礎幅のせいり1,500mm以上の場合はD13を、それ未満の場合はD10を用い、割付け間隔は450mm以内とする。 筋節の柱内へのみ込みは30mm程度（あばら筋との結束可能な程度）とする。隣接の梁の筋節と連続させる必要はない。 地耐力を受ける中央下端筋の定長さは、L0/4の位置より20dとする。
附	<ul style="list-style-type: none"> 基礎梁においてはL0/4の位置で筋節のワークを行わない。必要に応じて中央部の筋節を削り落とすか、寸法を必要長さまで延長して設計図に明示すること。ただし、長短で筋節が決まる場合はR-12-4を参照のこと。
名	ラーメン構造・基礎梁
縮	R-12-3

公共住宅標準詳細設計図集



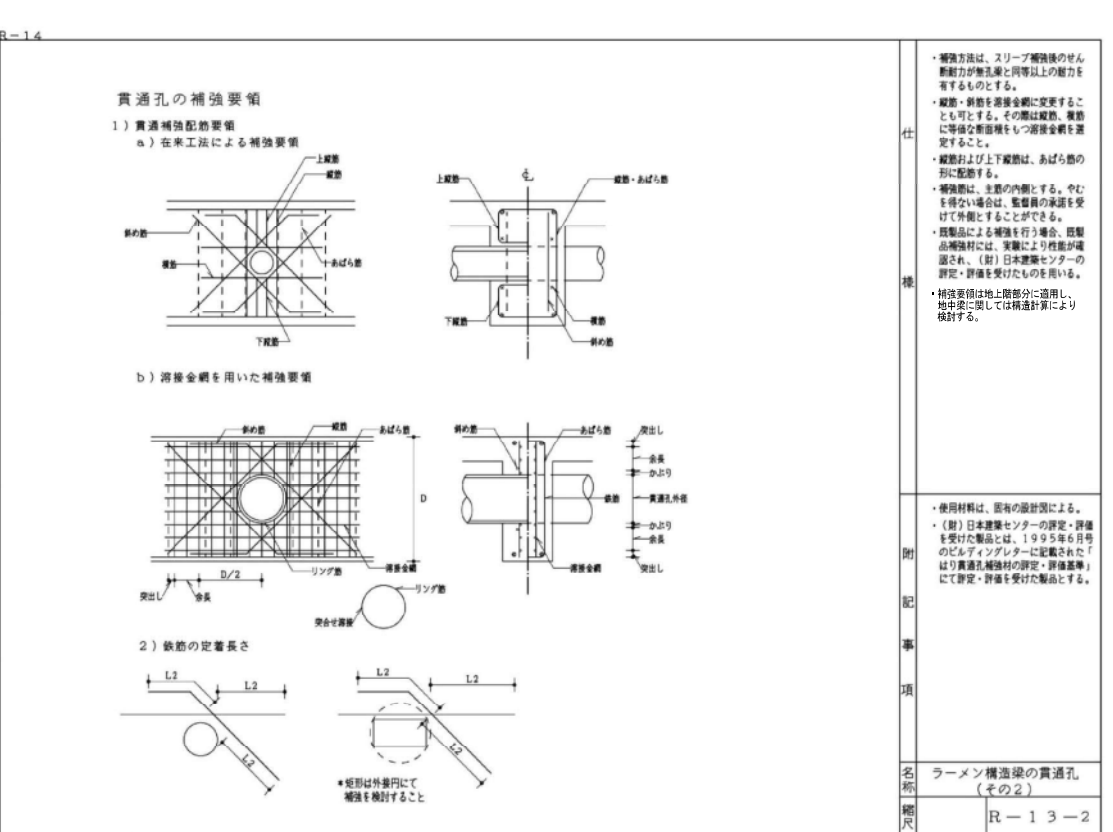
仕	<ul style="list-style-type: none"> 柱には、貫通孔を設けてはならない。 ○の寸法は、表記による値を最小値とし、個別設計での検討より決定する。
附	<ul style="list-style-type: none"> 基礎梁においてはL0/4の位置で筋節のワークを行わない。必要に応じて中央部の筋節を削り落とすか、寸法を必要長さまで延長して設計図に明示すること。ただし、長短で筋節が決まる場合はR-12-4を参照のこと。
名	ラーメン構造貫通孔 (その1)
縮	R-13-1

公共住宅標準詳細設計図集



仕	<ul style="list-style-type: none"> 端部トップ筋の定着は、L0/4の位置より15dとする。 中央引張筋節の定着は、下端の引張筋力範囲が長いので、L0/6の位置より20dとする。 端部トップ筋の定着は外端、内端にかかわらず、L0/4の位置より15dとする。 外端を有する小梁の中央下端部の外端方向への定着は、L0/6の位置より20dとする。 小梁中央下端部の連続梁方向への定着は、L0/4の位置より20dとする。 連続する小梁筋節配置が左で異なる場合は、隣接小梁内にL/2の定着をとるものとする。 定着部は先端において相互に重なりやすいので、所定のあさを確保するため、捨て筋を差し替える。 片持先端小梁の定着は、片持梁内水平アウターとし、定着は図示のように、外端は異なる。 下端筋の定着は、曲げ上げ・曲げ下げのいずれでもよい。
附	<ul style="list-style-type: none"> 小梁筋節の定着は、L0/4の位置より15dとする。 中央引張筋節の定着は、下端の引張筋力範囲が長いので、L0/6の位置より20dとする。 端部トップ筋の定着は外端、内端にかかわらず、L0/4の位置より15dとする。 外端を有する小梁の中央下端部の外端方向への定着は、L0/6の位置より20dとする。 小梁中央下端部の連続梁方向への定着は、L0/4の位置より20dとする。 連続する小梁筋節配置が左で異なる場合は、隣接小梁内にL/2の定着をとるものとする。 定着部は先端において相互に重なりやすいので、所定のあさを確保するため、捨て筋を差し替える。 片持先端小梁の定着は、片持梁内水平アウターとし、定着は図示のように、外端は異なる。 下端筋の定着は、曲げ上げ・曲げ下げのいずれでもよい。
名	ラーメン構造・小梁
縮	R-12-4

公共住宅標準詳細設計図集



仕	<ul style="list-style-type: none"> 補強方法は、スリブ補強後のせん断耐力が無孔梁と同等以上の耐力を有するものとする。 筋節・筋節を連続金網に変換することも可とする。その際は筋節・筋節に等価な数量をセッテング筋節金網を決定すること。 筋節及び上下端筋は、あばら筋の形に配筋する。 補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督員の承認を受けて外側とする。また、筋節・筋節による補強を行う場合は、監理品検査材料には、実業により性能が確認され、(財)日本建築センターの認定・評価を受けたものを用いる。 補強筋は地上部分に適用し、地中部分に関しては構造計算により検討する。
附	<ul style="list-style-type: none"> 使用材料は、図面の設計図による。 (財)日本建築センターの認定・評価を受けた製品は、1995年6月号のビルメンテナンスに掲載された「はり貫通補強材の認定・評価基準」にて認定・評価を受けた製品とする。
名	ラーメン構造梁の貫通孔 (その2)
縮	R-13-2

公共住宅標準詳細設計図集

【構造関係規定に適合することを確認】 一般建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事(第4工区)		図面番号 A No. S-C
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(3)		
検 図	製 図	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課		

R-15

非耐力壁

1) 非耐力壁 配筋リスト

呼称	非耐力壁					備考
	W100	W120	W150	W180	W200	
断面図 (立断面)						補止め筋配置
	縦筋	D10φ250	D10φ200	D10φ150	D10φ200	
横筋	D10φ250	D10φ200	D10φ150	D10φ200	D10φ200	
開口部補強筋	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	
開口部斜め補強筋	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	

2) コンクリートブロック壁 配筋リスト

呼称	コンクリート壁			備考
	CB100	CB150	CB200	
断面図 (立断面)				●横筋は配筋を示す。
	縦筋	D10φ400	D10φ400	
横筋	D10φ600	D10φ600	D10φ600	

3) 非耐力壁の割付け

●壁のダブル配筋を行う場合、横筋は縦筋の外側に配する。
●壁の補止め筋の配置は、上記以外でのダブル配筋を行う場合にも適用とする。

名称: ラーメン構造非耐力壁 (その1)
縮尺: R-14-1

R-17

6) 完全スリット及び部分スリット要領

(a) スリット配筋例

(b) スリット部開口補強

●部分スリット
●壁-非耐力壁

●完全スリット
●壁-非耐力壁

●壁のダブル配筋を行う場合、横筋は縦筋の外側に配する。
●壁の補止め筋の配置は、上記以外でのダブル配筋を行う場合にも適用とする。

名称: ラーメン構造非耐力壁 (その3)
縮尺: R-14-3

R-16

4) 非耐力壁開口補強, スリット詳細

注) 開口部補強筋は全てD13を示し、---表示の補強筋はW120以上の場合に使用する。

(a) フレーム内の場合

(b) フレーム外の場合

5) ひび割れ防止用補強筋

溶接金網	壁厚	W100		W120, W150, W180, W200	
		a	b	a	b
4φ 100x100	400	200	200	-	-
8φ 100x100	200	200	400	200	-

格子鉄筋	壁厚	W100, W120		W150, W180, W200	
		a	b	a	b
D6 100x100	200	200	-	-	-
D10 100x100	-	-	200	200	-

●ひび割れ防止用補強筋は、壁厚に依存して異なる。

名称: ラーメン構造非耐力壁 (その2)
縮尺: R-14-2

R-18

耐力壁・地下壁

1) 耐力壁の定着

(a) 柱への定着

(b) 梁への定着

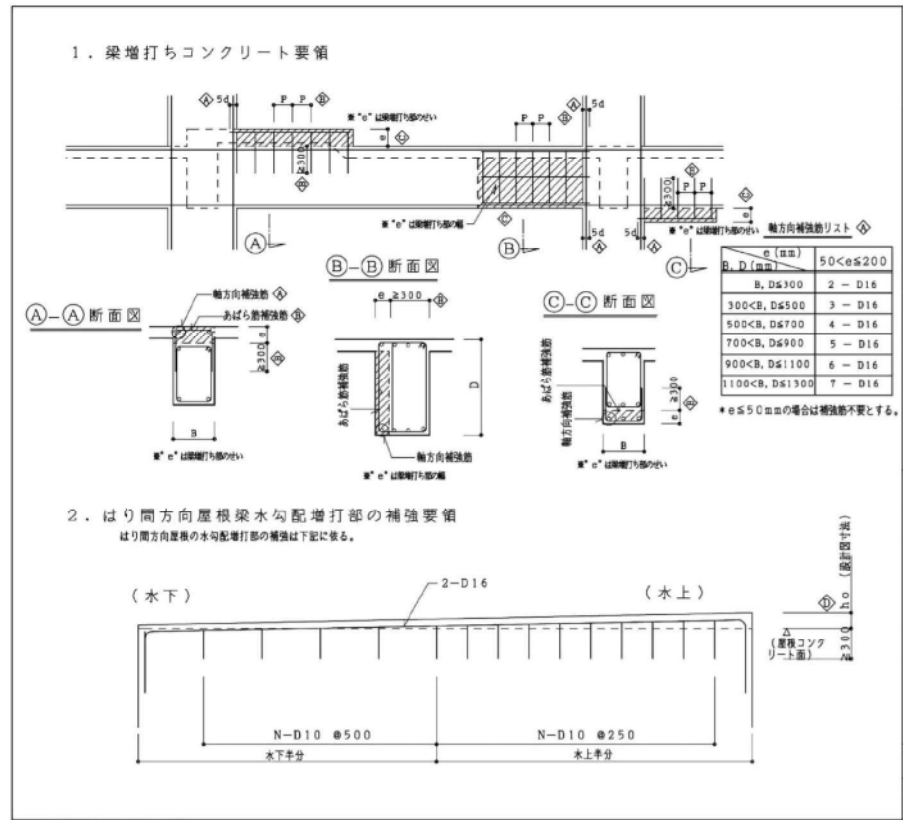
2) 地下壁の定着

(a) 柱への定着

●耐力壁・地下壁のコンクリートの埋し厚さは図面の設計による。

名称: ラーメン構造耐力壁・地下壁
縮尺: R-15-

株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事 (第4工区)		図面番号
【構造関係規定に適合することを保証】 一級建築士登録番号 第03072号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦		一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		No. S-D
検 図	製 図	設計 H28年3月	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図 (4)	縮尺 A1 A3 二
愛知県建設部建築局公営住宅課				



仕 補強筋は増打ちコンクリート断面の0.4倍かつD16以上、間隔は200mm以下とする。定数は5dとする。補強筋を表にて示す。5d以上の定数とする場合は補強筋については構造設計により決定する。

仕 あら補強筋はD10以上の鉄筋を使用し、ピッチはあら筋と同ピッチとする。また定数への定数は300mm以上とする。

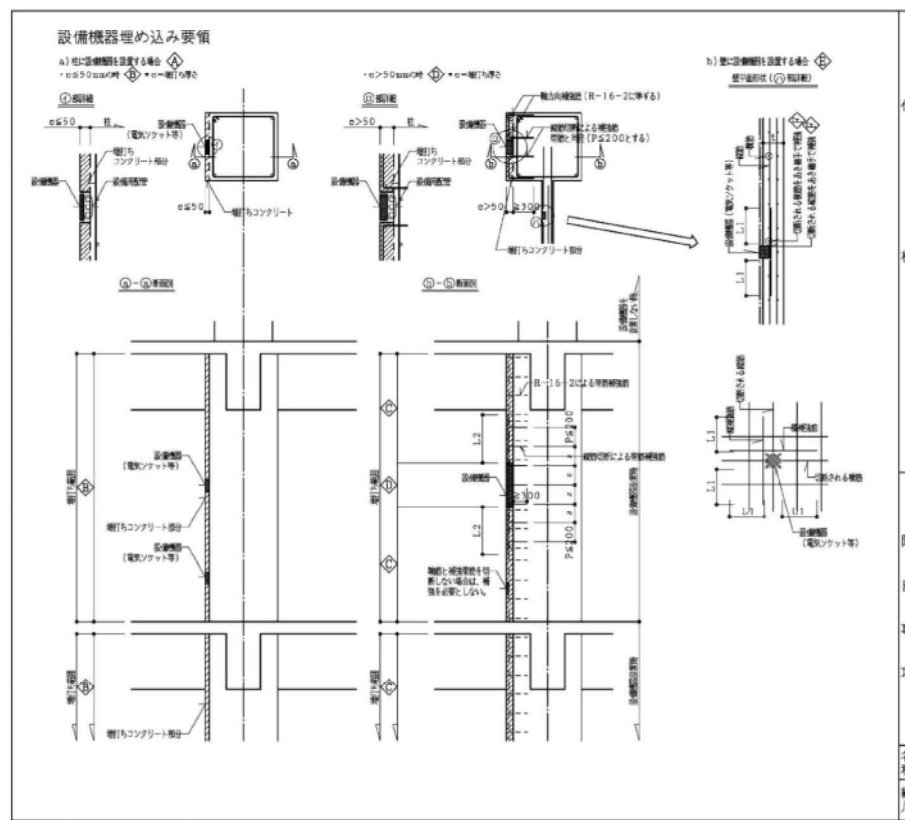
仕 増打ちコンクリートの厚さは200mm以下とする。

仕 h₀ ≥ 150 の場合には、補強筋D10 @ 250Eさらに水勾配の1/2まで延長して配筋する。

名 称 ラーメン構造 梁増打ち要領

縮 尺 R-16-1

公共住宅標準詳細設計図集



仕 仕には原則として設備機器の埋込みは行わない。設置する場合は設備機器設置部分を埋め打ちする。

仕 設備機器埋込み厚さ「e」がe ≤ 50 mmの場合は補強筋の必要はない。

仕 埋め打ち厚さ「e」がe > 50 mmの場合は補強筋はR-16-2に準ずる。

仕 設備機器が埋め打ち部の補強筋を切断する場合、補強筋を設備機器の両側に分けて配置する。

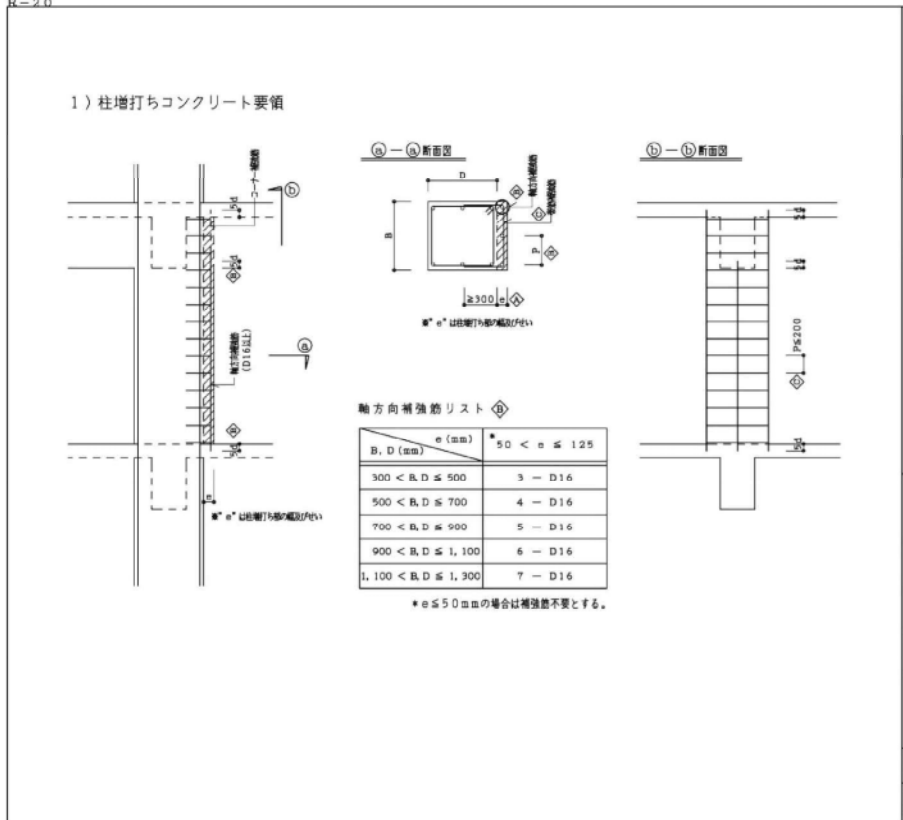
仕 埋め打ち厚さ「e」がe > 50 mmの場合には、補強筋の切断しない場合は、補強筋の必要はない。この場合は設備機器と定数とのあきに準ずる。

仕 壁に接する埋め込み機器が壁の補強筋を切断しない場合は、補強筋を切断する場合、切断した本数だけ補強筋の外側に補強筋を配する。この補強筋と壁の配筋はあき継手とし、重ね継手長さは1.1とする。

名 称 設備機器埋込要領

縮 尺 R-16-3

公共住宅標準詳細設計図集



仕 柱の増打ちコンクリートの厚さは原則として125mm以下とする。

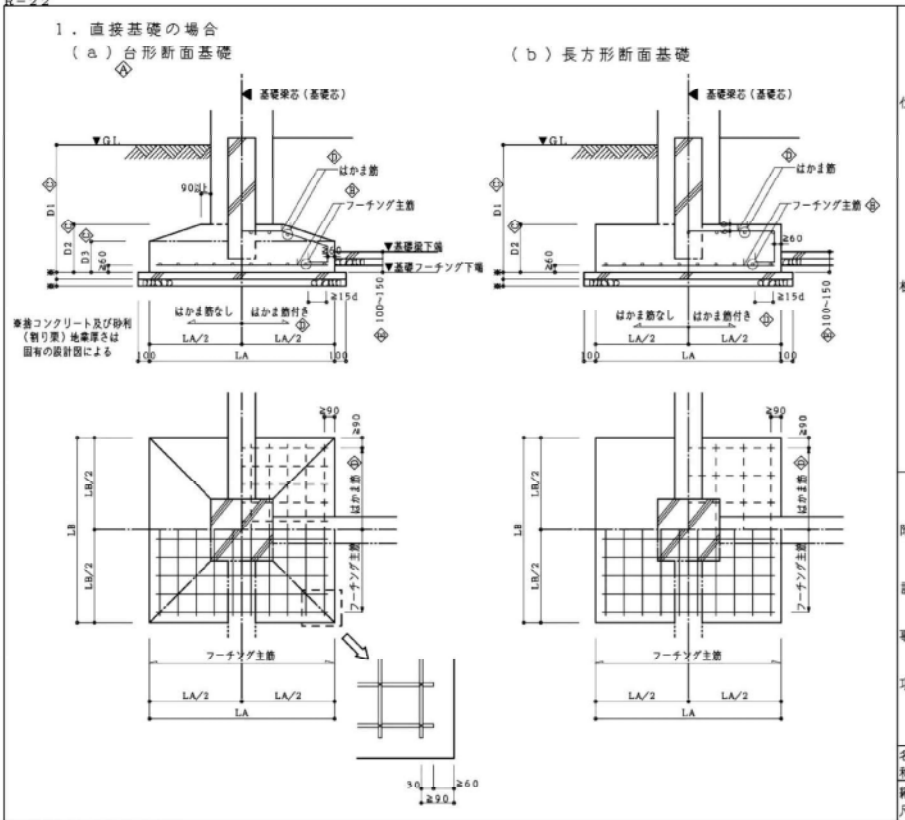
仕 補強筋は増打ちコンクリート断面の0.8倍かつD16以上、間隔は300mm以下とする。定数は5d以上とする。補強筋を表にて示す。

仕 補強筋の補強は実断面の管筋と同様とし、間隔は200mm以下とする。また実断面に300mm以上定着する。

名 称 ラーメン構造 柱増打ち要領

縮 尺 R-16-2

公共住宅標準詳細設計図集



仕 2m x 2m以下の独立基礎においては、施工上の留意性を考え台形断面とし、なすり、これ以上の大きな基礎は台形断面とした場合は、テーパ一面をなすりの必要のない勾配(15°~20°)以下とする。

仕 フーチング主筋は、本数は設計図による。フーチング幅毎において60mm以上のふりをもと、電線のフーチング主筋1本目は、90mm以上のふりをもとて配筋する。

仕 D1, D2, D3は、固有の設計図による。

仕 はかま筋は基礎に押しよけが作用する場合は必ず配筋し、鉄筋径、ピッチは固有の設計図による。

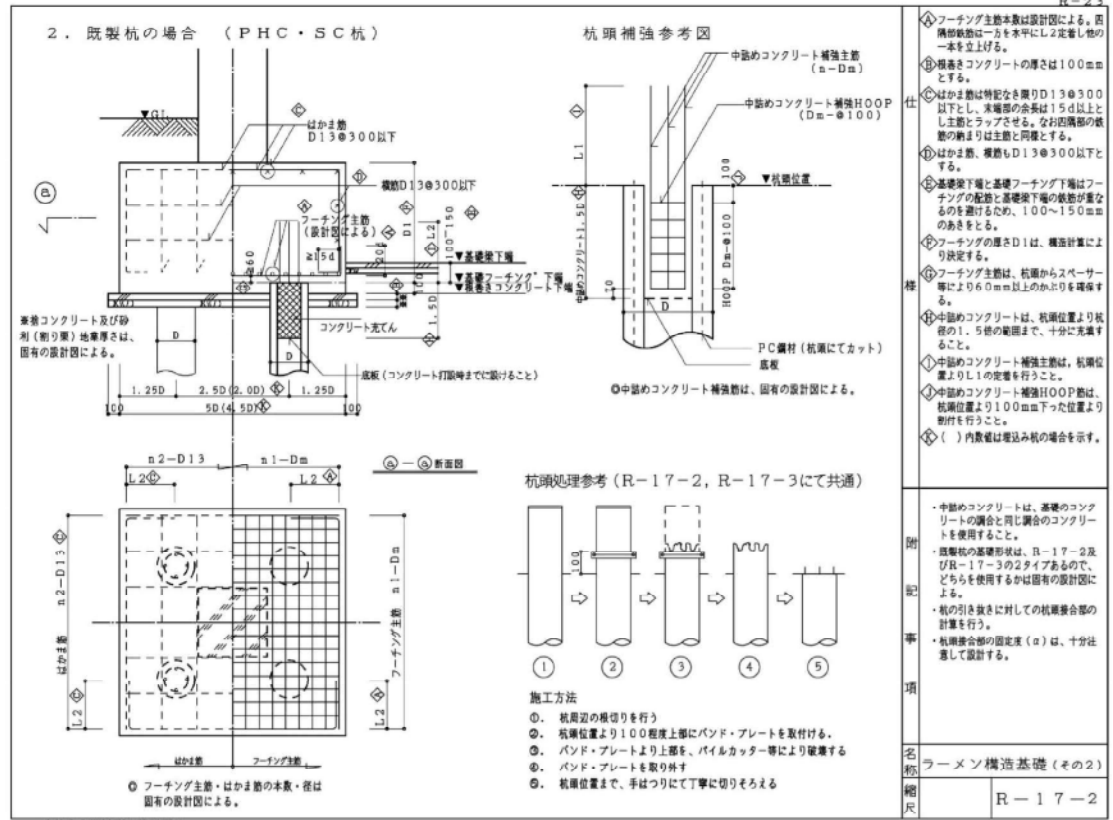
仕 基礎下層と基礎フーチング下層は、基礎下層とフーチング主筋が異なるものを示すため、100~150mmのあきをとる。

名 称 ラーメン構造基礎(その1)

縮 尺 R-17-1

公共住宅標準詳細設計図集

【構造関係規定に適合することを保証】 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事(第4工区)		図面番号 No. S-E
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(5)		
検 査	製 図	設 計	愛知県建設部建築局公営住宅課		
		H28年3月			



R-23

フーチング主筋本数は設計図による。両側部は一方を水平にL2定着し、他の一本を立ち上げる。

はかま筋は特定な間隔D13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし主筋とラップさせる。なお両側部の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。

はかま筋、間隔もD13φ300以下とする。

基礎梁下層と基礎フーチング下層はフーチングの配筋と基礎梁下層の鉄筋が異なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。

フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

フーチング主筋は、杭頭からスペーサー等により60mm以上のかぶり確保する。

中詰めコンクリートは、杭頭位置より杭径の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。

中詰めコンクリート補強HOPは、杭頭位置より100mm下った位置より配筋すること。

() 内数値は埋込み杭の場合を示す。

中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの割合と同じ割合のコンクリートを使用すること。

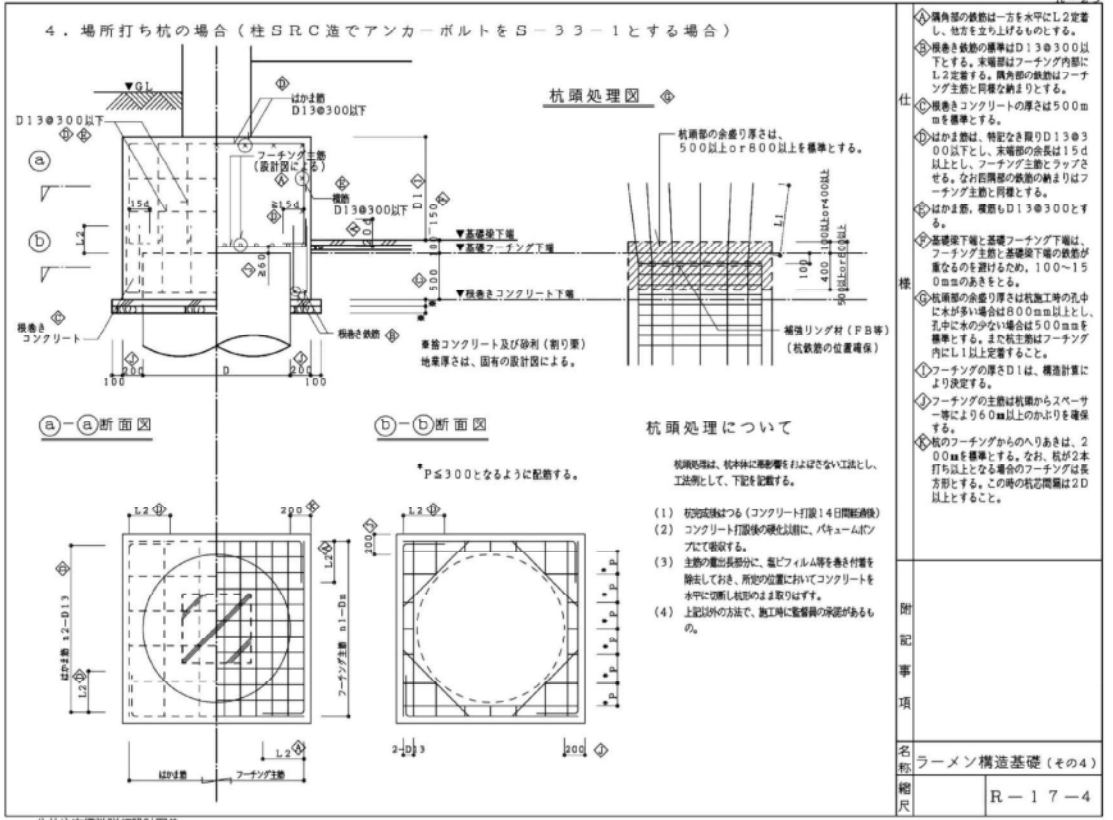
既製杭の基礎形状は、R-17-2及びR-17-3の2タイプあるので、どちらを使用するかは図有の設計図による。

杭の引き抜きに対しての杭頭部全体の計算を行う。

杭頭部全体の固定度(a)は、十分注意して設計する。

ラレーン構造基礎 (その2)

R-17-2



R-25

両側部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立ち上げるものとする。

はかま筋の納まりはD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし主筋とラップさせる。なお両側部の鉄筋の納まりはフーチング主筋と同様とする。

はかま筋、間隔もD13φ300以下とする。

基礎梁下層と基礎フーチング下層はフーチングの配筋と基礎梁下層の鉄筋が異なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。

フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

フーチング主筋は、杭頭からスペーサー等により60mm以上のかぶり確保する。

中詰めコンクリートは、杭頭位置より杭径の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。

中詰めコンクリート補強HOPは、杭頭位置より100mm下った位置より配筋すること。

() 内数値は埋込み杭の場合を示す。

中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの割合と同じ割合のコンクリートを使用すること。

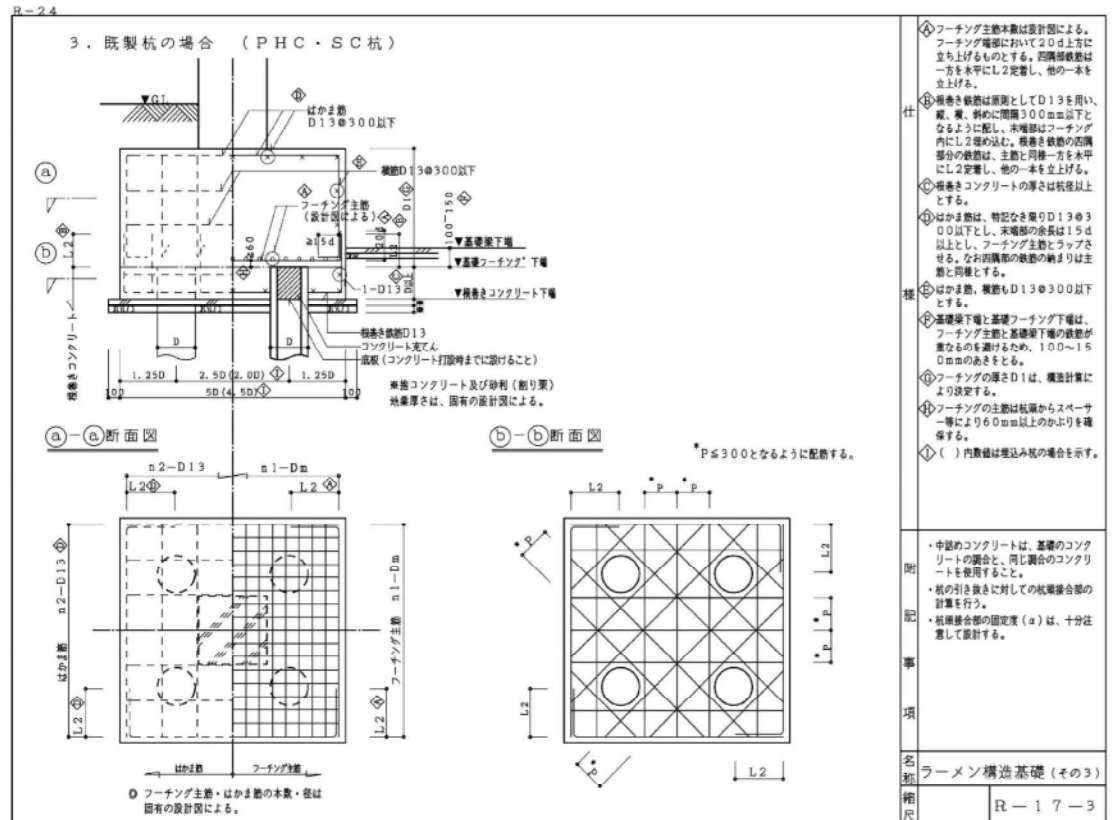
既製杭の基礎形状は、R-17-2及びR-17-3の2タイプあるので、どちらを使用するかは図有の設計図による。

杭の引き抜きに対しての杭頭部全体の計算を行う。

杭頭部全体の固定度(a)は、十分注意して設計する。

ラレーン構造基礎 (その4)

R-17-4



R-24

フーチング主筋本数は設計図による。フーチング端部において20d以上に立ち上げるものとする。両側部は一方を水平にL2定着し、他の一本を立ち上げる。

はかま筋は特定な間隔D13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし主筋とラップさせる。なお両側部の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。

はかま筋、間隔もD13φ300以下とする。

基礎梁下層と基礎フーチング下層はフーチングの配筋と基礎梁下層の鉄筋が異なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。

フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

フーチング主筋は、杭頭からスペーサー等により60mm以上のかぶり確保する。

中詰めコンクリートは、杭頭位置より杭径の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。

中詰めコンクリート補強HOPは、杭頭位置より100mm下った位置より配筋すること。

() 内数値は埋込み杭の場合を示す。

中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの割合と同じ割合のコンクリートを使用すること。

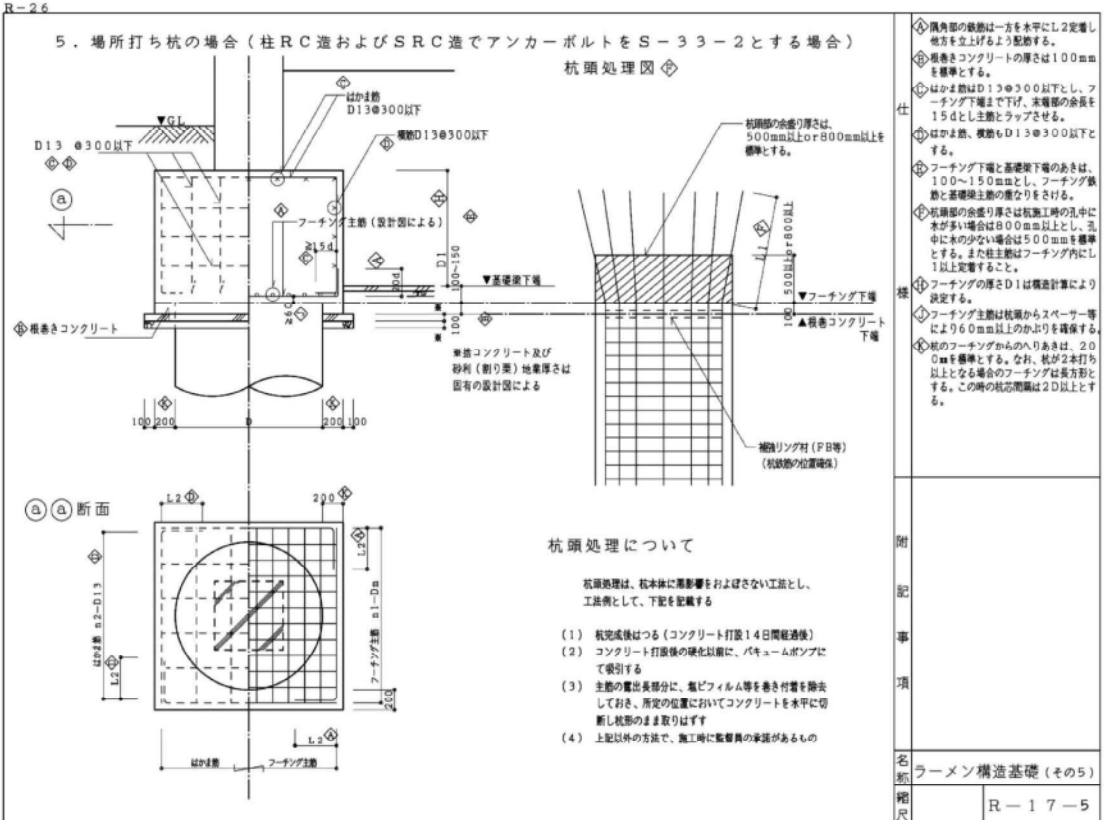
既製杭の基礎形状は、R-17-2及びR-17-3の2タイプあるので、どちらを使用するかは図有の設計図による。

杭の引き抜きに対しての杭頭部全体の計算を行う。

杭頭部全体の固定度(a)は、十分注意して設計する。

ラレーン構造基礎 (その3)

R-17-3



R-26

両側部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立ち上げるものとする。

はかま筋の納まりはD13φ300以下とし、フーチング下層まで下り、末端部の余長は15d以上とし主筋とラップさせる。

はかま筋、間隔もD13φ300以下とする。

基礎梁下層と基礎フーチング下層はフーチングの配筋と基礎梁下層の鉄筋が異なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。

フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

フーチング主筋は、杭頭からスペーサー等により60mm以上のかぶり確保する。

杭のフーチングからのへりあきは、200mmを標準とする。なお、杭が2本打ち以上となる場合はフーチングは長方形とし、この時の杭頭間隔は2D以上とする。

中詰めコンクリートは、杭頭位置より杭径の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。

中詰めコンクリート補強HOPは、杭頭位置より100mm下った位置より配筋すること。

() 内数値は埋込み杭の場合を示す。

中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの割合と同じ割合のコンクリートを使用すること。

既製杭の基礎形状は、R-17-2及びR-17-3の2タイプあるので、どちらを使用するかは図有の設計図による。

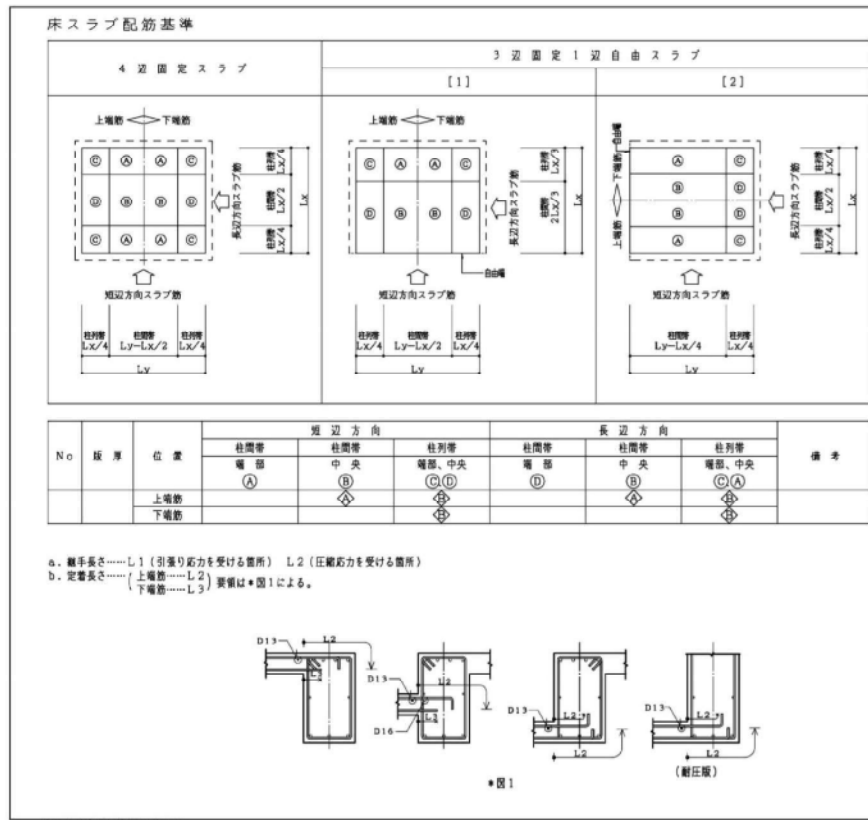
杭の引き抜きに対しての杭頭部全体の計算を行う。

杭頭部全体の固定度(a)は、十分注意して設計する。

ラレーン構造基礎 (その5)

R-17-5

株式会社ヤスウラ設計	鳴海住宅建築工事 (第4工区)	図面番号
【構造関係規定に適合することを保証】 一級建築士登録番号 第03072号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	一級建築士登録番号 第191560号 水野 豊秋	No. S-F
鉄筋コンクリート構造 配筋基準図 (6)	縮尺 A1 A3 二	
設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	



公共住宅標準詳細設計図集

R-3.9

中央部上層(●部)は、床板上層筋を1本おきに渡すことを標準とする。
 柱間等配筋は、柱間等配筋の1/2(断面積比)かつ下表の値以上とする。

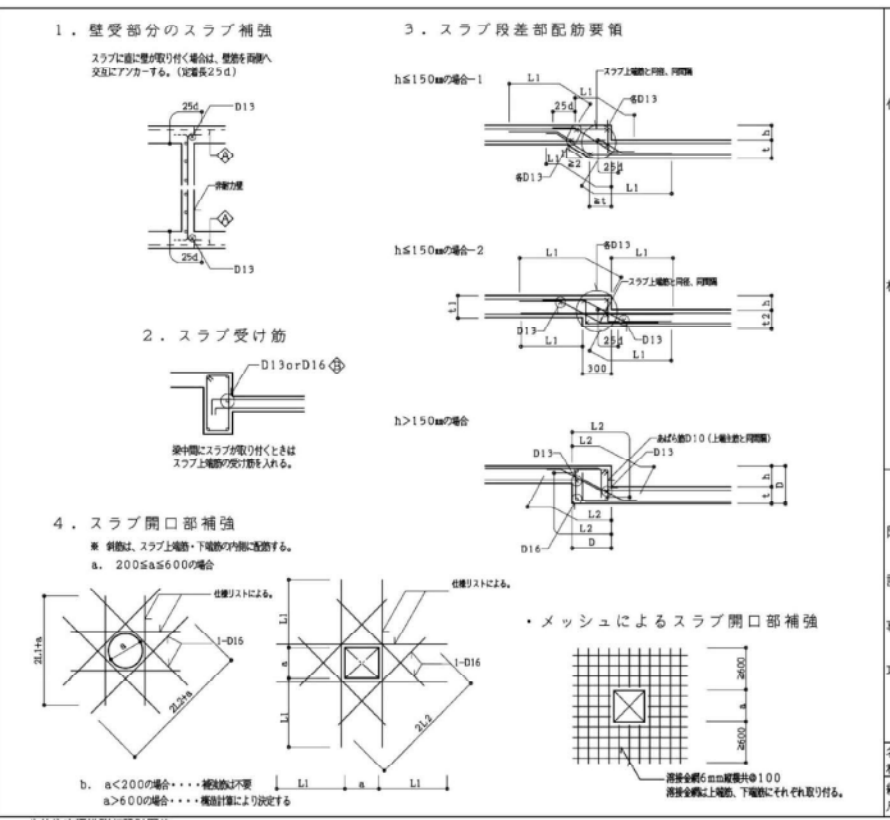
柱間等上層筋	柱間等下層筋
D10 ① 150 D10 ② 250	
D10 ③ 200 D10 ④ 250	
D10 ⑤ 250 D10 ⑥ 250	
D10 ⑦ 300 D10 ⑧ 250	
D10 D13⑨ 150 D10 ⑩ 200	
D10 D13⑪ 200 D10 ⑫ 250	
D10 D13⑬ 250 D10 ⑭ 250	
D10 D13⑮ 300 D10 ⑯ 250	

D13のみときは上層のD10をD13と読みかえて適用する。

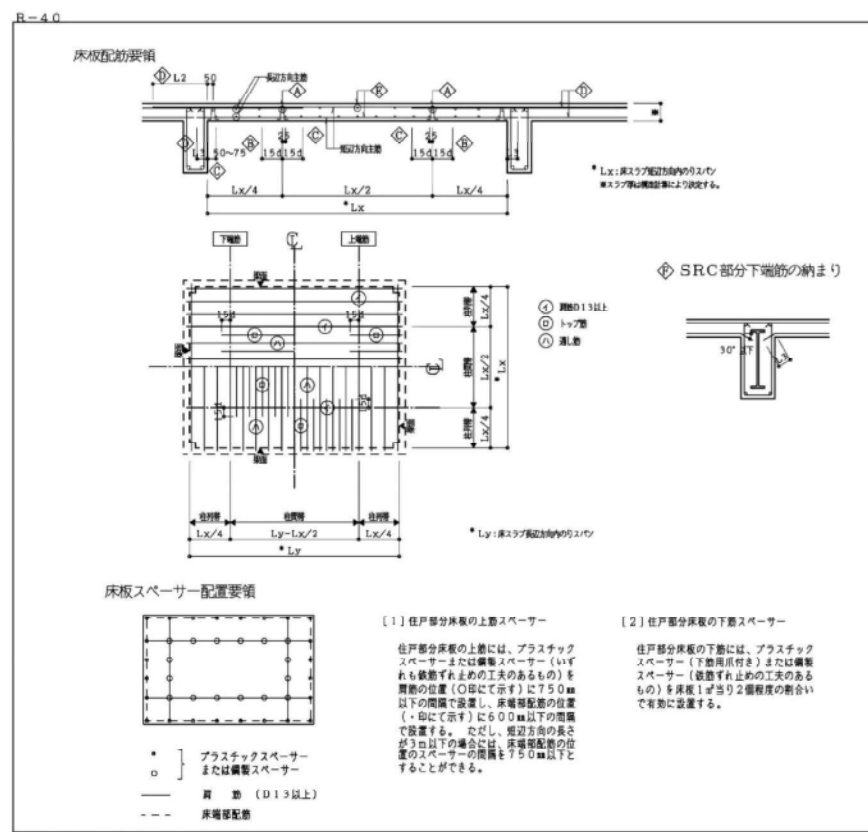
3辺固定1辺自由スラブ[1]においてLx/Ly≦2となる場合は、片側スラブに準じて取り扱う。
 3辺固定1辺自由スラブ[1],[2]の場合は、モチアミ配筋とする。

仕
 様
 附
 記
 事
 項
 名
 称
 縮
 尺

床板(その1)
 R-51-1



公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集

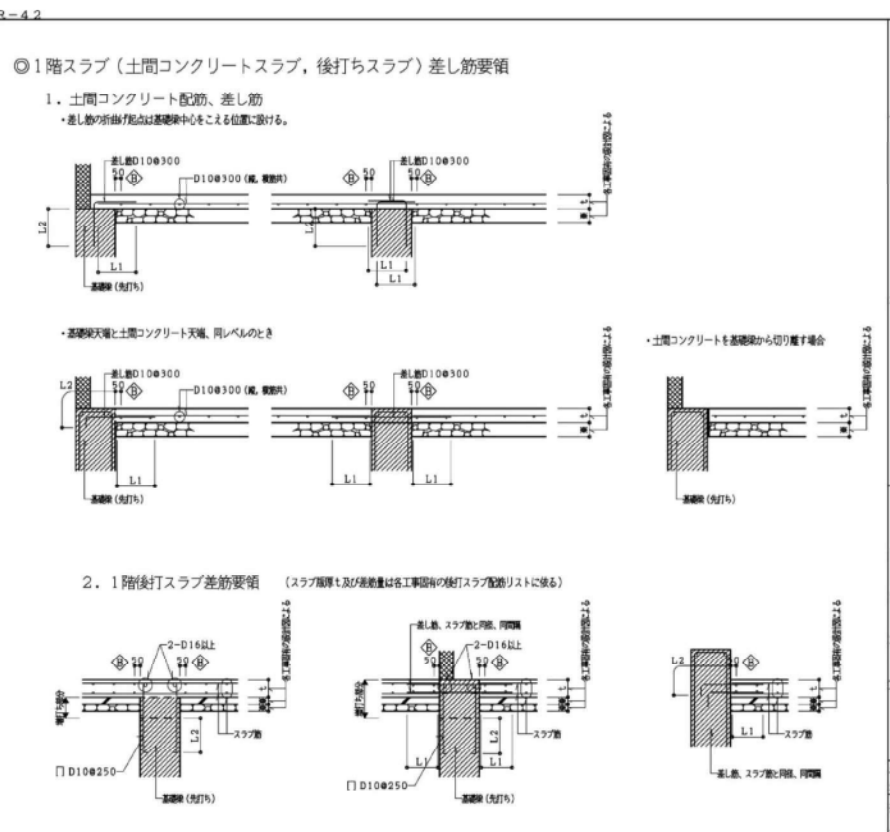
R-4.0

断面はD13以上とする。この位置のスペーサーは、床板スペーサー配置要領により配する。
 主筋のトップ筋はLx/4(長辺方向)またはLy/4(短辺方向)より150mm未満とする。
 サポート部分の下層筋は、パーティート等に当たらないように25mm程度ずらして配筋する。
 上層筋の定着はL2とし、隣接スラブに定着する場合は差しとしてよい。柱間等上層筋は梁中に引継ぎを要しないことが望ましい。下層筋の定着はL3とし、隣接スラブに定着する場合は上層筋と同様な処理をしてよい。
 柱間等中央上層筋は端部上層筋を1本おきに渡す。
 SRCの場合のスラブ下層筋は、鉄骨にぶつかるといった場合は主筋にぶつかるといった場合は30°を確保しない範囲で梁面から折上げてよい。

在来工法スラブの場合に於いては下記による
 ・スラブ厚さは、構造設計による。
 ・住戸の居住性能及び施工性を上げるために、スラブ厚さは150mm以上とするのが望ましい。
 ・スラブの内り面積は、長期たわみ、ひび割れ及び振動等防止のための24㎡以下とすることが望ましい。
 ・内り面積が24㎡を超える場合には、R-51-5の補筋配筋を行う。

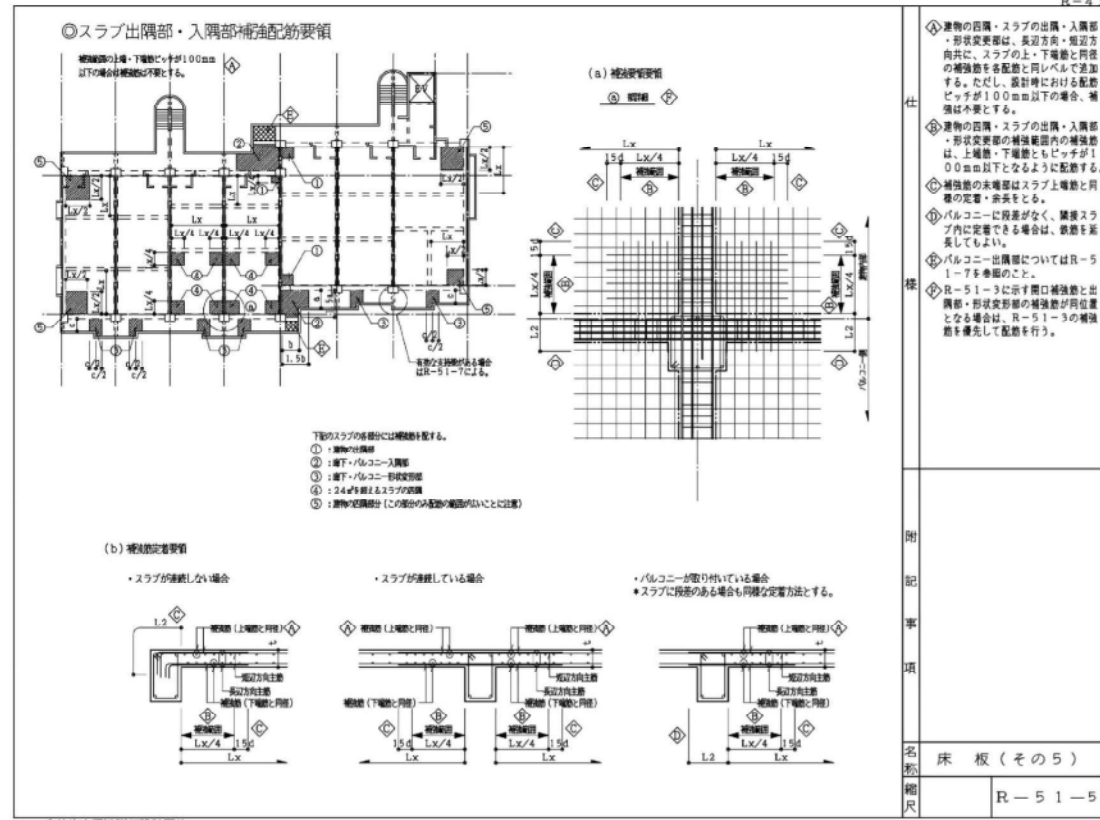
仕
 様
 附
 記
 事
 項
 名
 称
 縮
 尺

床板(その4)
 R-51-4



公共住宅標準詳細設計図集

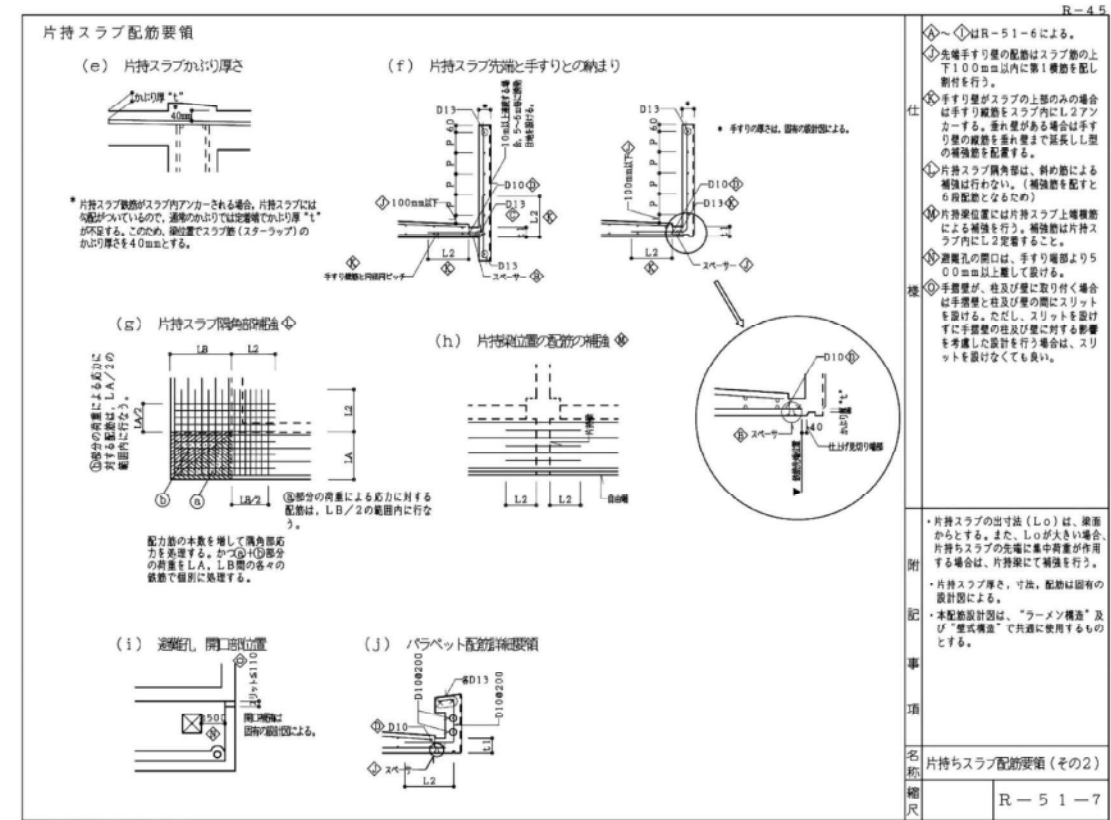
【構造関係規定に適合することを保証】 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計	鳴海住宅建築工事(第4工区)		図面番号
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(7)	縮尺 A1 二	No. S-G
検 図	製 図	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	



R-4-3

仕 建 築 事 業 項 目 名 称 床 板 (その 5)

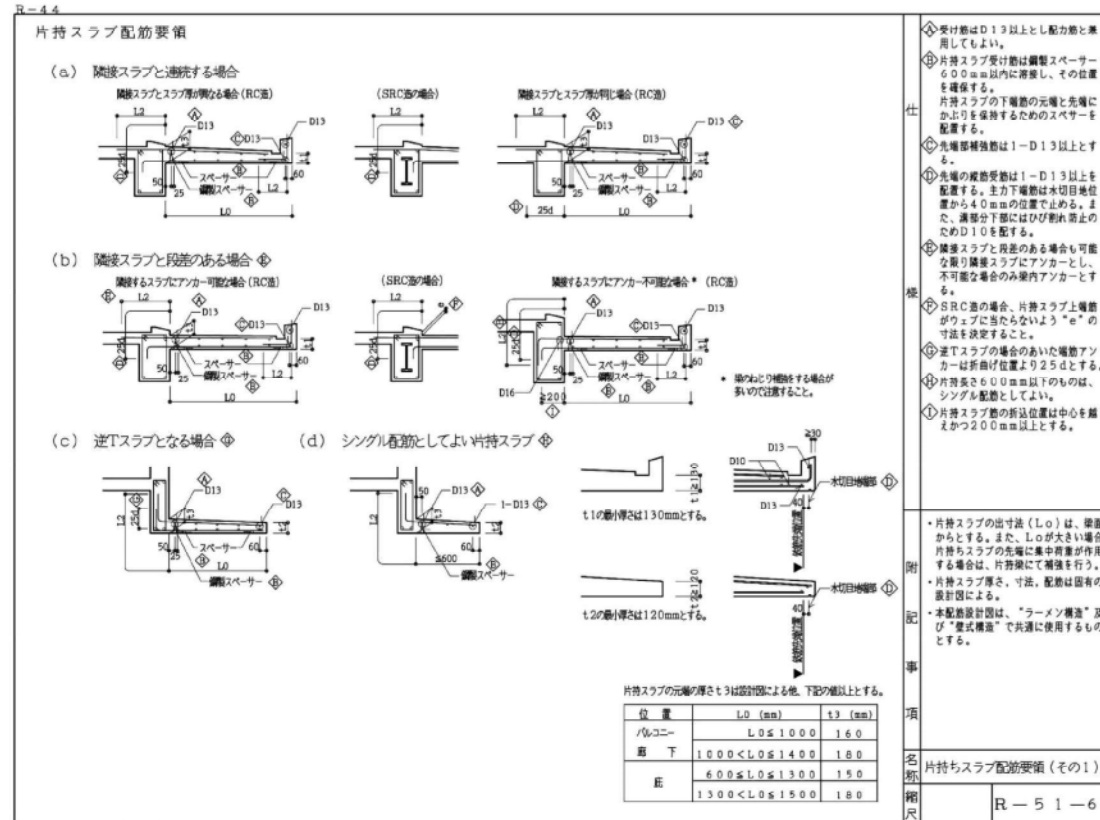
縮 尺 R-51-5



R-4-5

仕 建 築 事 業 項 目 名 称 片 持 ス ラ ブ 配 筋 要 領 (その 2)

縮 尺 R-51-7



R-4-4

仕 建 築 事 業 項 目 名 称 片 持 ス ラ ブ 配 筋 要 領 (その 1)

縮 尺 R-51-6

【構造関係規定に適合することを確認】 一級建築士登録番号 第03972号 構造設計一級建築士登録番号 第5150号 豊田 清彦	株式会社ヤスウラ設計		鳴海住宅建築工事(第4工区)		図面番号
	一級建築士登録番号 第191563号 水野 豊秋		鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(8)		No. S-H
検 査 員	製 図 員	設 計	愛知県建設部建築局公営住宅課		
		H28年3月			